

- 知床沿岸域は、海氷ができる海洋の中では世界で最も低緯度に位置。海氷がもたらす豊富なプランクトンにより多様で豊かな海洋性生物が育まれる。沿岸域で育ったサケ科魚類が知床半島内の河川を遡上してヒグマや猛禽類の貴重な餌資源となり、陸と海の生態系のつながりを生む。
- 北方系と南方系の種が混在するなど、地理的位置と多様な自然環境から特異な種構成がみられ、固有種のシレトコスミレや絶滅危惧種のシマフクロウに代表される多様な生物種を見ることができる。

知床の景観

知床八景：知床半島の8箇所の名勝

- ・ プユニ岬
- ・ フレペの滝
- ・ 知床峠
- ・ 知床五湖
- ・ カムイワツカの滝
- ・ オシンコシンの滝
- ・ オロンコ岩
- ・ 夕陽台

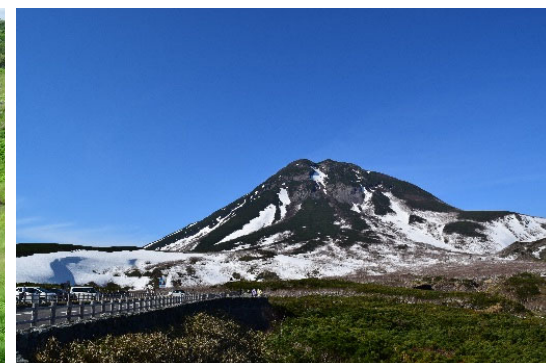
※世界遺産区域外



プユニ岬



フレペの滝



知床峠から望む羅臼岳

知床半島に生息する野生生物

- ・ シマフクロウ
- ・ オオワシ
- ・ クマゲラ
- ・ オジロワシ
- ・ ヒグマ
- ・ キタキツネ
- ・ シレトコスミレ 等



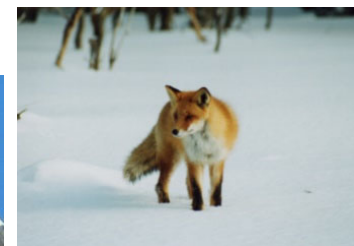
シマフクロウ



クマゲラ



オオワシ



キタキツネ



ヒグマ



シレトコスミレ

「知床」における林野庁の取組

- 知床の国有林のうち、世界自然遺産地域の陸域の約94%にあたる約4万6千haに「森林生態系保護地域」を設定。
- サケ科魚類の遡上や産卵環境改善のための治山ダムの改良、シマフクロウや中小型哺乳類等のモニタリング、エゾシカによる食害対策、淡水魚類の生息状況調査等により適切に保護・管理。

世界自然遺産地域の国有林野 (知床森林生態系保護地域)

森林生態系保護地域面積 45,981ha

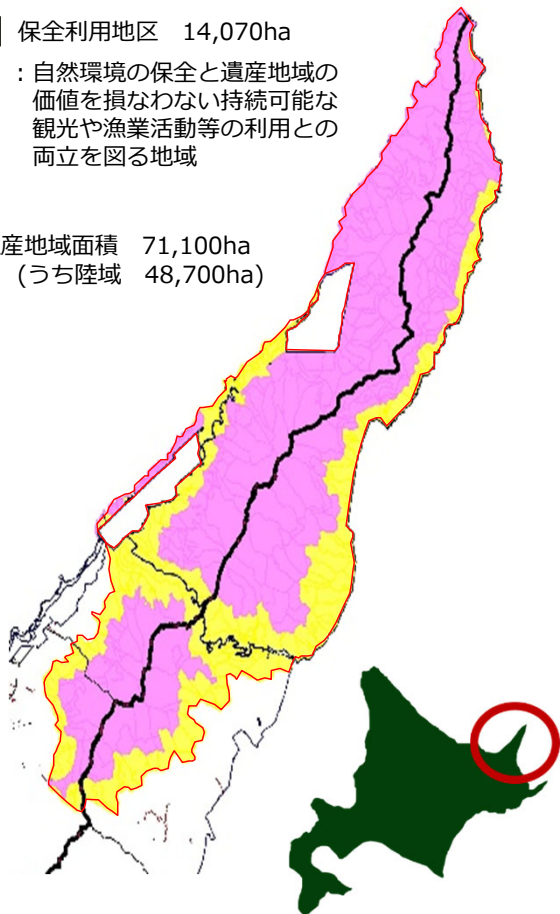
保存地区 31,911ha

: 将来にわたり厳正な保護・管理をはかる地域

保全利用地区 14,070ha

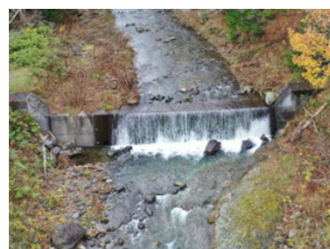
: 自然環境の保全と遺産地域の価値を損なわない持続可能な観光や漁業活動等の利用との両立を図る地域

遺産地域面積 71,100ha
(うち陸域 48,700ha)



サケ科魚類の遡上・産卵環境の改善

- ・ 陸と海の生態系のつながりを保持するため、魚類の遡上・産卵環境の改善のための治山ダムの改良を実施
- ・ 河川におけるサケ科魚類の遡上数や産卵床数、稚魚降下数等をモニタリング



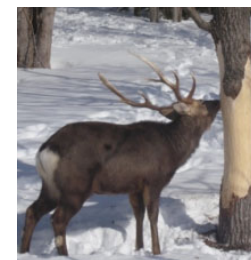
改良前



改良後

エゾシカによる食害対策

- ・ 植生保護柵を設置し、保護柵内外の植生比較により、エゾシカによる採食圧と植生の回復状況等を調査
- ・ エゾシカによる希少種植物の衰退を防止するため、くくりワナ等による捕獲事業を実施



エゾシカによる食害の様子



植生保護柵

野生生物の巡視・調査

- ・ 希少な野生生物であるシマフクロウの生息状況等を確認するための巡視を実施
- ・ 自動撮影カメラによる中小型哺乳類等のモニタリングを実施
- ・ 地球温暖化の指標となるオシロコマの生息状況を調査し、世界遺産委員会に報告



オシロコマ



シマフクロウ

グリーンサポートスタッフによる森林保全

- ・ グリーンサポートスタッフ(森林保護員)が、知床世界遺産地域や隣接国有林野における植生状況を把握するための巡視、入林者へのマナー指導等を実施



活動の様子